

◎いわゆる「小1プロブレム」解消に向けて

1. 幼保小連携の活性化

- ・ **互恵性**のある交流活動の実施
- ・ **無理や無駄のない指導計画**の作成
- ・ **教職員の交流**（永福小学校の教員を保育園へ派遣しての「一日保育士研修」の実施）

2. 円滑な小学校生活に向けた取組み

- ・ 「幼稚園指導要録」活用の充実
- ・ 就学前健診の改善と工夫
- ・ ヒアリングの徹底
- ・ 保護者との信頼関係の構築
（**入学前相談**の理解周知と実施）



合理的で柔軟な学級運営へ

永福小では、皆さんの 相談をお待ちしております ～入学前からご相談いただけます～

アレルギー、言葉のおくれ、落ち着きがない、友だちとうまく遊べない、会話になりにくい、かんしゃくをおこすなど、同年代の子と比べて気になるところや、子育てをするなかで心配なことはありませんか？
ささいなことでもかまいません。スムーズな小学校生活の始まりに向けて、相談窓口を設置しております。お気軽にご相談ください！



どんなことでも遠慮なく
ご相談ください。



杉並区立永福小学校
東京都杉並区永福2-16-33

電話：03-3322-7391

担当：神田（特別支援コーディネーター）



永福小学校へ入学前、お子様自身につけておいていただきたいこと…



職員一同、お子様のご入学を心よりお待ちしております！

◎食事について … 永福小学校では、通学12時20分から13時05分を給食の時間として設定しています。心身の健康的な発達に向けて、保護者の方には毎日の献立等を把握いただくとともに、基本的なルールやマナーを守り、美味しく楽しく食事ができるよう口癖からご家庭でもご指導をお願いいたします。



食事の前には手を洗う
(必着に応じて食後も)



舌を吐いて食べる
(スプーンなどを用)



席について食べる



時間内に残さず食べる

◎休憩について … 永福小学校では、45分間の授業を基本とし、授業と授業の間に5分間(2時間目と3時間目の間は20分)の休み時間が入ります。この休み時間の間にトイレに行き、授業中は活動に集中できるようにしていきたいです。



水洗トイレを使う
(※トイレでは、水を毎回流す。また、「和式トイレ」もなるべく使えるようにお教じいたします。)



トイレの後には手を洗う



時間を守ってトイレに行く



必要時と急は伝える

◎服装について … 永福小学校では、体育の時間には体育着に着替えます。また、気温や活動に応じて、適宜に衣服の調節ができるよう安心して学校生活を過ごしていくことができます。



一人で背負える



た丈んで、しまろ



天気や活動に合わせて

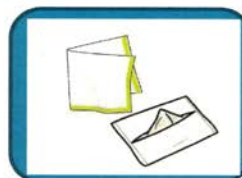


履いた靴をそろえる
(靴の紐は履き、きつて調整)

◎清潔・衛生について … 永福小学校では、各階に冷水機を設置していますが、自己管理のもとで、水筒を家庭から持参してもかまいません。大事な水分摂取とともに手洗い・うがいなど、清潔で衛生的な学校生活は、学習の基盤となります。



適切な量の水を飲む



ハンカチ・ティッシュ持参



汗をかいたら拭く



手を洗ったら拭く

◎生活面について … 永福小学校では、学級はもちろん、学年や学校全体等の様々な場面で集団行動をすることがあります。集団生活にあたって、必要な力やお願いしたいことがあります。



自分で持ち物の準備をする



正しい姿勢を保つ



話は静かに聞く



活動と休み時間を区別

☆その他 … 雨の日に、傘やレインコートの始末ができず、困っている姿をよく目にします。ひとりで雨具の始末ができるよう、ご指導をお願いいたします。

◎安全について … 永福小学校は地域に根ざした学校として、安心安全に学校生活を送ることができるよう、ルールやマナーを守ることでできる児童の育成にも取り組んでいます。是非、ご家庭でもご協力をお願いいたします。



すすんで挨拶をする



決まりを守る
(注意を受け止める)



兄弟や友だちと仲良くする
(暴力的な行動をしない)



校舎の中は走らない



危険な遊びをしない
(危険物も近づかない)

小学校入学にあたって、不安なことや心配なことがたくさんあると思います。そんな時は、いつでも学校にご相談ください。(本校にはスクールカウンセラーも原則週に一度勤務をしています。)まずは、電話でご連絡をいただきたいです。ご家庭や幼稚園などでは、基本的な生活習慣を身につけていくとともに、遊びを通して様々な力を身につけていってほしいと思います。

子供に絵を見せながら...

No.

記入者： _____

児 童 対 応 記 録

【該当児童の名称】

年 組 (担任: _____)

【問題行動の内容】 ※複数あれば全て○で囲んでください。

キレる 暴れる 暴言 対児童暴力 対教師暴力 器物破損 ()
無視 逃避 (保健室・ビオトープ・校内の徘徊・図書館・校外・その他)

【問題行動を起こした日時】

平成 年 月 日 () 時 分 頃

授業中 (教科: _____) ・ 休み時間 ・ 給食中 ・ 清掃活動中
行事中 (_____) ・ その他 (_____)

【問題行動にいたった経緯、背景、発端となった言動等】 ※極めて端的に記入してください。

① 経緯や背景

② 発端となった言動等 (教師や相手児童の言動)

③ 今後、本児に対して留意したいこと。

※校閲

学年主任	所属学級担任1	所属学級担任2	所属学級担任3	専科	専科	専科	特支コ	副校長
------	---------	---------	---------	----	----	----	-----	-----

※該当のない箇所は斜線を入れる。

児童対応記録のねらい

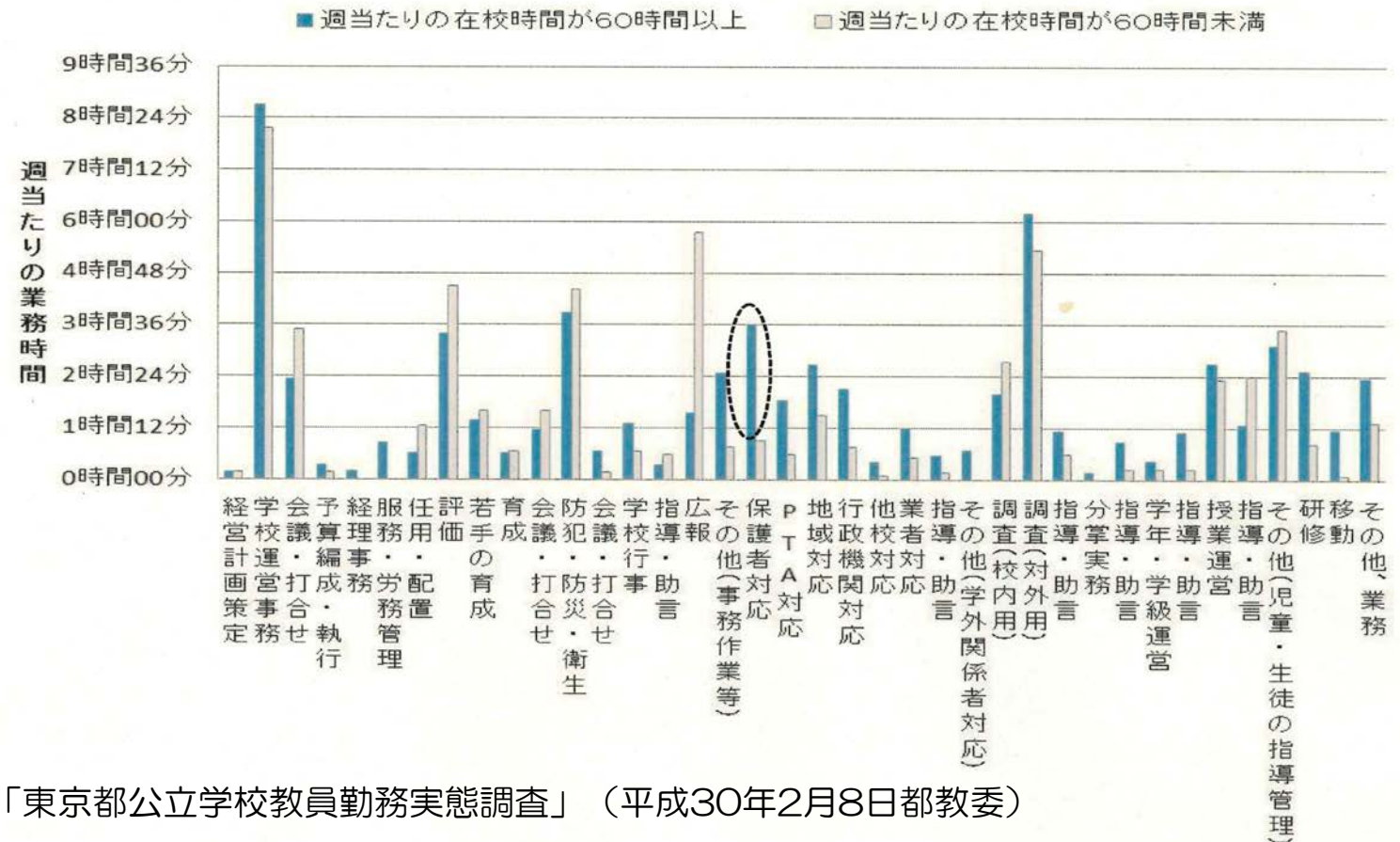
- 問題行動を起こす背景の分析 (問題行動に至った経緯やトリガーの振り返り)
- 当該児童と関わった教職員自身の言動の振り返り
- 当該児童と関わる全教職員への留意
- 当該児童の自己肯定感の向上
- 当該児童を取り囲む児童集団へのモデルの提示
- 円滑な学級運営・授業展開

「保護者対応」に係る職員研修のねらい

- 信頼される学校づくりの推進（「改善（＝変化）」の「期待」への変換）
- 開かれた学校づくりの推進
- クレームに繋がる事案の理解と整理（共通認識の向上）
- 保護者側の「当事者意識」の涵養
- 初期対応の絶対的有効性の理解
（通常業務の円滑な推進）
- 組織の一員としての教員の柔軟な
対応力の向上
- 「相談事案の解決」による**支持の獲得**
- 保護者からの「相談」を活かした
更なる業務改善の推進



小学校・副校長の業務内容別業務時間



副校長の校務軽減にも資する

「東京都公立学校教員勤務実態調査」（平成30年2月8日都教委）

2 自信がありますか、「外部との連携・折衝力」？

保護者や地域の方からの要望や苦情など、日常的に起きる問題を適切に解決することは、今日求められる重要な力の一つになっています。

私たち教員一人一人が経験や職層に応じた自らの役割と責任を自覚し、OJTや研修などを活用して、以下の4つの力をバランスよく身に付けていく必要があります。

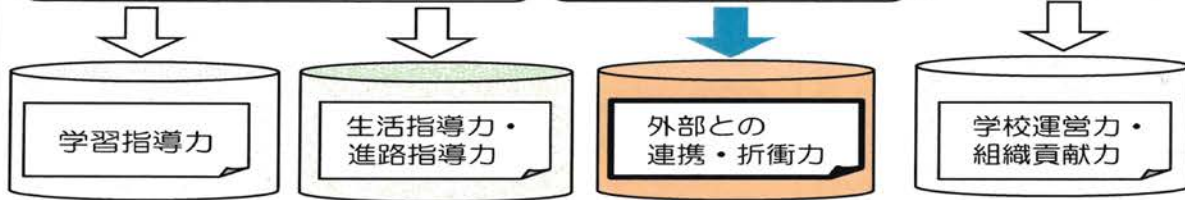
チェック

- 自分にとって、4つの力はバランスよく備わっているか。
- 4つの力の中で、永福小組織の弱点は何か。

学力向上、規範意識の醸成など、児童・生徒に対する教育指導の力

保護者、地域、外部機関と連携・協働する力

学校全体として組織的に取組む力



子供の変化に対応し、指導方法を工夫・改善、変革していくことが必要な力

社会状況の変化に対応し、今後特に身に付けることが必要な力

外部との連携・折衝力

- 保護者・地域・外部機関に適切に対応する力
- 課題に応じ保護者・地域・外部機関と連携をとり解決に向けて取り組む力
- 保護者・地域・外部機関との協働の下、自校の教育の向上を図る力
- 学校からの情報発信や広報、保護者・地域・外部機関からの情報収集を適切に行う力

「教師としての「コミュニケーション能力」

◎「外部との連携・折衝力」と「学校運営力・組織貢献力」は、学校の在り方、今日的な課題への対応として求められるもので、教員に必須の力として高く求められます。

学校が教育目標を達成するとともに、開かれた学校づくりや自主性・自律性の確立を現実のものとするためには、一人一人の教員に必要な力が備わり、その力が組織的に機能しなければなりません。

○ 学習指導力

授業をデザインする力、ねらいに沿って学習を進める力、児童・生徒の興味を引き出し、個に応じた指導をする力、主体的な学習を促すことができる力、学習状況を適切に評価し、授業を進める力、授業を振り返り改善する力

○ 生活指導力・進路指導力

児童・生徒と良好な関係を構築する力、児童・生徒の思いを理解し、適切に指導する力、児童・生徒の個性や能力の伸長並びに健全な心身及び社会性の育成を通して自己実現を図らせる力、自校の生活指導・進路指導上の課題を発見し解決する力

◎ 外部との連携・折衝力

○ 学校運営力・組織貢献力

校務において企画・立案する力、上司や同僚とコミュニケーションをとりながら、円滑に校務を遂行する力、組織の一員として校務に積極的に参画する力、校務の問題点を把握し改善する力

求められる教員の力

3 保護者からのクレームの理解

- 1 問題指摘型（善意のクレーマー）**
児童・生徒の迷惑行為、教職員の不適切な指導、施設・設備の問題を指摘し、善処を求めるタイプ ※誠意ある回答と即座の対応をとることがポイント
- 2 関係保持型（依存型クレーマー）**
何か一言言わずには気が済まない人。些細な出来事を大げさに訴える、頻繁に学校を訪れ、接点を求めてくるタイプ ※貴重な情報も多いので、丁寧に対応
- 3 敏感・神経質型（敏感型クレーマー）**
頻繁に訪れ、不平・不満を述べて帰るタイプ。例「チャイムの音がうるさい」「校庭から出る砂埃をどうにかしろ」「学校の木落ち葉が庭に落ちてくるので、片づける」など ※全面的な解決は無理でも、少しでも改善点を具体的に示す
- 4 自尊型（自尊感情過多型クレーマー）**
周囲の人から一目置かれるため（地域の有力者・政治家等）自分は優れた人物であるとのプライドが高い人で、他人の評価に敏感なので、発言や注意を無視されたと感じると激しい口調で攻撃に転ずるタイプ。
- 5 子供ベッタリ型（溺愛型クレーマー）**
我が子かわいさゆえにクレームをつけてくる。溺愛・過保護型の保護者や、共通の攻撃対象をもつことで子供との「絆」を保とうとするタイプ。例えば、愛するわが子が危機にさらされたり、悲しみ嘆く仕打ちを受けたりと感じると母（父）性本能を強烈に出した行動にはしる。※まず言い分を十分聞いた上で、正しい情報を伝えること
- 6 利得追求型（利得追求型クレーマー）**
クレームをつけることで、金品・物品の要求をつきつけるタイプ。※毅然とした姿勢を貫くこと
- 7 欲求不満解消型（欲求不満解消型クレーマー）**
別のことに対する不平・不満を学校にぶつけることで、欲求不満を解消しようとするタイプ
- 8 愉快犯型（愉快犯型クレーマー）**
苦情内容の改善や要求が実現の目的ではなく、クレームに戸惑う相手の様子を見て満足感を得るタイプ ※単独で対応しないことが鉄則
- 9 理解不能型（混乱型クレーマー）**
クレーム自体が学校と無関係であったり、その内容が突然変わったりするなど、混乱が見られるタイプ。人格障害の疑い
- 10 無クレーム型（無クレーマー）**
「言いたくても言えない」タイプ ※サイレントマイノリティ？マジョリティ？

（「学校崩壊と理不尽クレーム」「困った親への対応」嶋崎政男著より引用・改）

保護者からの苦情への対応

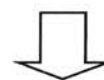
受
容

傾
聴

共
感
的
理
解

<対応の視点>

- 我が子の言葉を信じたいという思いを受け止める。
- 話し合いは、今後の連携についての協議の場であると捉える。
- 一度の話し合いで解決しようとするよりも、継続して行う方がよい場合もある。



<具体的な手立て>

- ◎まず、保護者の思いを最後までよく聴く。
- ◎教師が一方的に話すのではなく、子供の良い点を交えながら、事実を客観的に伝える。
- ◎管理職や学年主任に相談し、役割を決めて組織的に対応する。
- ◎対応の苦労や悩みを教師間で話し合うようにする。
- ◎保護者が実行可能な具体的な手立てを共に考えていく。
- ◎相手には取組の様子を継続的に伝える。



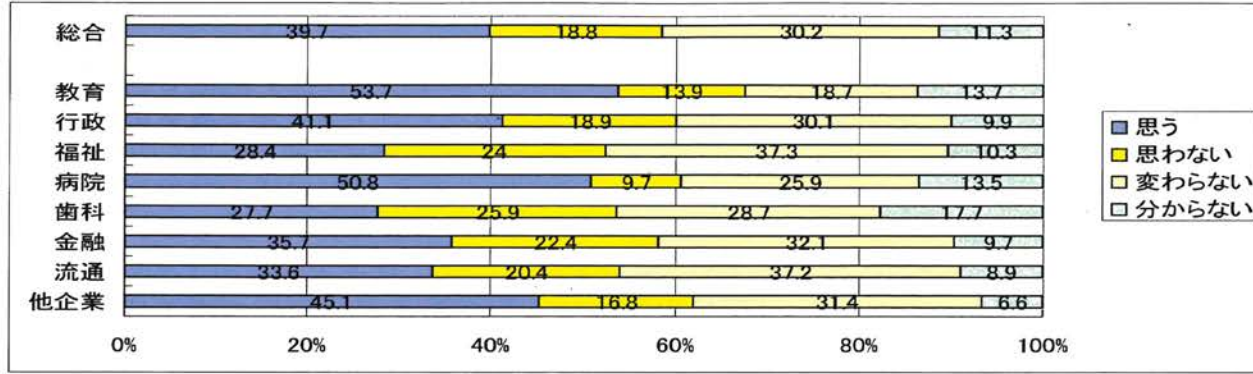
※クレーム対応の秘訣は、保護者と教師の信頼関係の構築に尽きます。敵対的な姿勢では、真の相互理解は困難です！

永福小にも日々保護者等から、電話、手紙、連絡帳、来校等により、多種多様な情報が寄せられます。その中には、素朴な質問や相談、学校に対する不安や不満、要望や苦情などがあります。保護者の方のどんな声であっても、こちらの接し方（対応の仕方）によって、その後の流れがよくも悪くも決まってしまう。

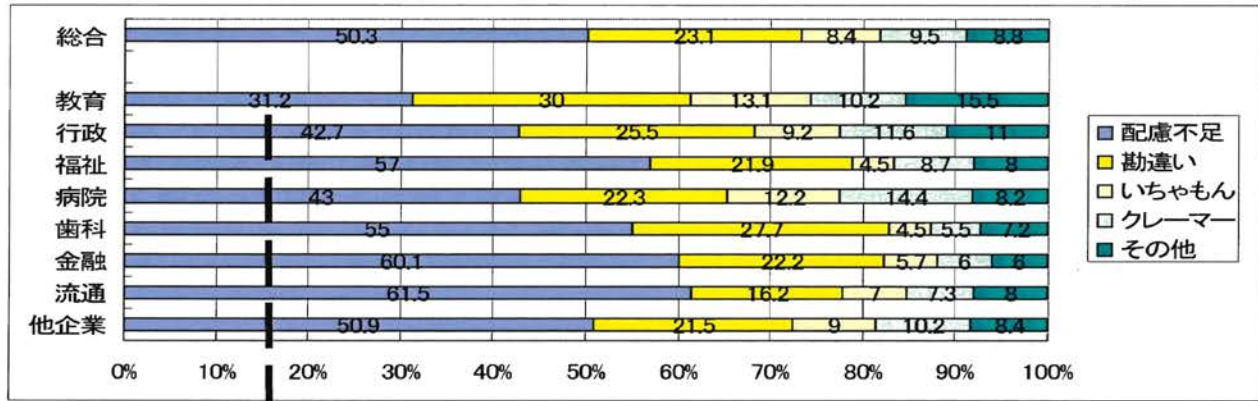
学校として、子供のために保護者とよりよくつながるためには、先入観をもって対応したり、勝手な決め付けや思い込みをしたりすることなく、その背景にある事情や保護者の心情等を把握しようとする姿勢が不可欠です。

4 教師の自己理解

質問1 近年、自分の職場では苦情が増えていると思いますか。



質問2 何がその原因だと思いますか。



「日本苦情白書」(平成21年7月 関根眞一氏総監修)による

ポイント

相談(=問題)を捉える教師の姿勢には、その問題に対する教師自身の見え方や捉え方を映し出します。それは、これまでの生活観、人生観、教師観等によっても異なるもの。教師は、自分自身がどのような認知傾向をもつのか、自分の思考パターンや行動パターンを把握する等の自己理解を深めることが非常に大切です。

チェック

◎ 自己の思考パターンや行動パターン

熱血・情熱家	冷静沈着	気分屋	優柔不断
短気	気長	面倒くさがり屋	神経質
用意周到	出たとこ勝負	大らか	アバウト・ルーズ
白黒つけたがり	仕切りたがり	プライド高い	負けず嫌い
我慢強い	お調子者	努力家	楽天的
社交的	実は内向的	人情家	けっこう淡泊
謙虚	時に傲慢	柔軟	時に八方美人
理論家・雄弁	口下手	温厚	喧嘩っ早い

◎ 私が思う、_____先生の思考パターンや行動パターン

熱血・情熱家	冷静沈着	気分屋	優柔不断
短気	気長	面倒くさがり屋	神経質
用意周到	出たとこ勝負	大らか	アバウト・ルーズ
白黒つけたがり	仕切りたがり	プライド高い	負けず嫌い
我慢強い	お調子者	努力家	楽天的
社交的	実は内向的	人情家	けっこう淡泊
謙虚	時に傲慢	柔軟	時に八方美人
理論家・雄弁	口下手	温厚	喧嘩っ早い

◎ 対人認知上の自己の傾向(注意したい点)

- ・
- ・
- ・
- ・

学校経営評価実施計画（各学期末 年間3回実施）

手 順	内 容	1学期	2学期	3学期
①各自入力	全項目の中で必要に応じて、成果と課題・改善案について記入する。	6月 7日（金） ～ 7月14日（木）	12月 1日（金） ～ 12月20日（木）	2月14日（木） ～ 2月23日（木）
②分掌会議 で検討	個人が記入した内容について分掌で検討し、部会案をまとめる。	分掌で設定	1月9日（火）	1月27日（火）
③管理職へ	部会案を起案し、管理職に検討していただく。	8月 1日（火）	1月17日（水）	3月 1日（木）
④企画会議で 検討	課題について再検討しまとめる。	8月29日（火）	1月22日（月）	3月12日（月）
⑤職員周知	部会案を部長が提案し、職員に周知する。	9月 6日（木） 職員会議	1月24日（水） 職員会議	3月14日（水） 職員会議

- ◎ 新たなアイディア、提案の採用（内発化）
- ◎ 日常業務そのものを再認識（習慣化）

◎ 校務改善に係る建設的な意見や柔軟な発想を吸い上げ、「次学期」で実行

Ⅳ 成果と今後の課題

【成 果】

- 校務改善を推進する中で、各教職員の意識の向上が生まれるとともに、各自がそれぞれに **当面する業務をリフレーミング**することで、当該業務の質的向上に繋がった。
- 焦点化していた課題に改善の余地を見出して実行することで、付随する関連業務の精査や合理化にも繋がるなど、**改善の効果が広く波及**する効果を生んでいる。（教育活動に対する**保護者の理解啓発**にも効果が大きい。）
- 必達の目標が明確になることで、**スリムなPDCAサイクルの業務導入**ができる。
- 改善を実行する過程では、学年や分掌を横断したり、職場内での周知・協力が不可欠であったりすることから、豊かなコミュニケーションを生み出し、**チームとしての結束**が強まる。



永 福

平成30年1月31日
杉並区立永福小学校

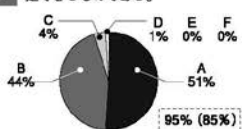
杉並区「教育調査」へのご協力ありがとうございました

副校長 紺谷 祥一

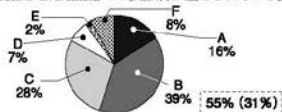
昨年末に御協力をお願いしました区「教育調査」アンケートの結果をまとめました。521戸の御家庭から回答を得ました(回答率93.9%)。歳末御多端の折に非常に多くの保護者の皆様に御協力を賜りましたことを、心より感謝申し上げます。また、本校教育活動に係る各質問項目に対し、総じて高い評価をいただきましたこと、更に、昨年度に課題としてお詫びした「情報が十分になく、回答できない」の数値(F回答)を各項目とも大幅に減じることができましたことにも併せて御礼申し上げます。本調査から見える成果や課題について、考察をいたしましたのでご覧ください。本結果は区教委はじめ、学校運営協議会にも報告させていただきます。

お寄せいただいた回答を円グラフにまとめました。各グラフの右下枠囲みの整数(四捨五入値)は、肯定率の合計ポイントを示します。また、()内は同様の質問に対する昨年度の肯定率。肯定率とはグラフ上の評価観点AとBの数値の合計を指します。

Q1 子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。



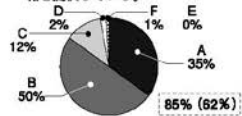
Q2 通塾する小・中学校による小中一貫教育(小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている。



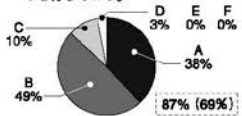
◎評価の観点

- A: とても思う
- B: やや思う
- C: どちらとも言えない
- D: あまり思わない
- E: まったく思わない
- F: 情報が十分になく、回答できない

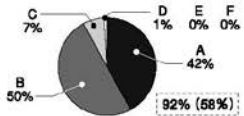
Q3 学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。



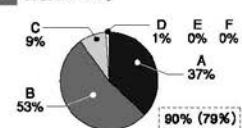
Q4 学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。



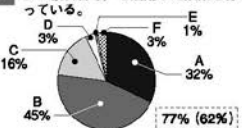
Q5 子どもは、学校の授業を通して、分かることやできることが増えている。



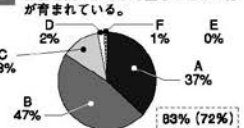
Q6 学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。



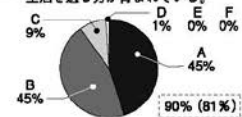
Q7 学校は、ICT機器(電子黒板やデジタル教科書等)を活用した授業を行っている。



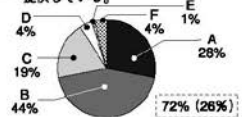
Q8 子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。



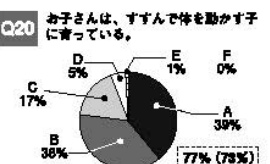
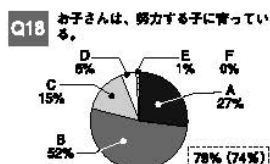
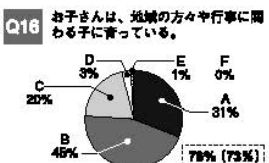
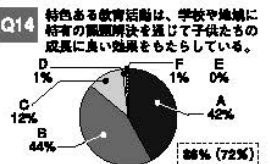
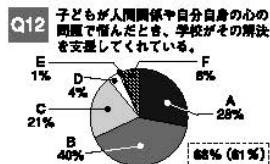
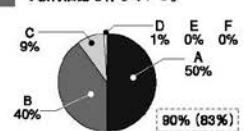
Q9 子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。



Q10 学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。



Q11 学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。



考察(成果と課題) ※()は昨年度の数値を示しています。

Q1のお子様の学校生活への満足度については、昨年度に比して95.4%という大変高い肯定率を得ました。この一方で、細目によっては評価C以下の回答が20%を超えるものもあり、重点となる課題として捉えています。特に、Q2の「小中一貫教育」に係る評価では、肯定率では昨年度より若干改善できたものの、この領域については、F回答(情報が十分になく、回答できない)が依然として8%(18%)あり、説明が足りませんでしたことを反省しております。地域の区立中学校への円滑な接続のみを意識することなく、9ヵ年の学びや成長を俯瞰的に見極めて当該学年で今何が必要であるかをより一層焦点化した指導を通じて御理解を得て参ります。Q4では、安全・安心な学校生活に係る不安を問わせていただきました。今年度87%(53%)の高い評価とともに、F回答も0%(17%)となりました。Q13の結果同様、この背景には、いじめ等の問題行動に対する未然防止の取組みや初期での迅速な指導の徹底を始め、一連の不審者対応やメールや電話の連絡体制の整備等が評価されたものと理解しております。安全で安心な学校や学級は最も基本かつ最優先事項です。情報の提供や日々のパトロール、また緊急連絡や引取りに係る訓練等々、保護者の皆様の御協力についても改めて感謝申し上げます。

主として学習に係る領域については、Q5、6、7にてお尋ねしました。学力の定着については、本校への期待の視点をなすものと捉えています。学年が上がるに従い通塾率が高くなる現状や、種々の学力調査では基礎力は高くても活用力・応用力等にはまだ伸びの余地がある等の課題があります。個に行き渡るきめ細かな指導に努めますが、引き続き保護者の皆様にはいつでも御来校いただき、お子様の様子をご覧ください。そして、お気づきのことや御不安がありましたら、遠慮なく御相談ください。

Q8およびQ15は、学校の教育活動全体を通じて養われる道徳的な心構え、判断力、実践意欲と態度等に関する実感を質問しています。こちらも昨年度比で10ポイント以上の肯定率の向上を見ました。今後とも発達段階に応じた個々の児童が、自己の生き方について考えを深め、目指す生き方に向けて確実に実践できる力を育成して参ります。Q9およびQ20は、体育・健康の領域について触れています。本校では、学力との両輪として体力や健康の増進を進めております。昨年度に本校独自に開発した「体力調査結果振り」を巡じ、お子様の体力の伸長や特定分野の課題について学校と共に理解を深めて下さい。本校では、心と身体を一体と捉え、適切な運動の経験や健康・安全に係る知識を深めることは楽しい明るい生活の礎であり、学力の向上にも直結すると考えます。

昨年度と同調査で最も低い肯定率(26.4%)となった特別支援教育に係る質問Q10は、結果として今回最もポイントが向上した項目となりました。「けやきルーム」や「コミュニケーション教室」の開設説明会や先のPTA主催の講演会等々を通じて、特別支援とは「特別な支援」ではなく、「一人一人のニーズに応じた教育」

であるという理念が少しずつ御理解いただけているものと感じております。しかしながら、依然としてC以下の評価が3割弱もあり、最も課題が顕著となった領域と言えます。日常の学級の中で特別支援教育がどのように取り組まれているのか等を、より広くお伝えできるよう今後とも頑張ります。また、同様にQ12にある、お子様の心のサポート体制についても一定の成果向上を見ることができました。今年度は特に既存の随行事や特別活動の見直し、更に日常の授業改善を図りながら、「子供と向き合う時間」を最優先に捻出することに力点を置いています。「気がかりな子供」について、我々教職員は情報を共有したり、当該の子供からよく傾聴したりすることに努めています。また、旧メモリアル・ルームに相談室を移転して以来、毎週木曜日勤務のスクールカウンセラーとの面談件数も順調に伸びており好評です。問題の解決には早期対応が不可欠と認識します。御不安なことがあれば遠慮なく御相談ください。



Q11、14、16は、地域におけるお子様の様子についてお尋ねしています。「地域と共に創る学校」を標榜する本校では、様々な御支援ならびに御協力をいただきながら教育活動を展開しています。統合新校5年目を迎え、目下そのねらいや手段、また効果等を確実に検証しながら次年度のあり方を模索しているところです。豊富な社会資源や人材を抱える本校の地域にあって、引き続き皆様の御意見や御尽力を賜れましたら幸いです。

Q15は規範意識、Q17は自己肯定感、Q18、19は目標に向かって努力する力や耐性等、お子様の心の成長について振り返っていただきました。総じてAやBの評価を下す保護者の皆様が多数一方で、C以下であるという厳しい御意見をお持ちの方も一定数あることが分かります。年齢に幅のある多くの児童を学校で見ていると、子供の成長のプロセスを実感させられます。自分では何もできず周りの大人を振り回す乳児期（赤ちゃん）も、幼児期には仲間との関わりを通じて、徐々に自分の衝動をコントロールできるように、自律性を獲得していきます。そして失敗や成功を重ねながら、他者の気持ちを汲み取るようになって、善悪や恥、嫉妬といった心を身に付けたりするといいます。中高学年ともなると、更に何でも自分でやりたがるなど自己主張が強くなります。背伸びし過ぎた際は注意や叱責も必要となりますが、叱られてばかりでは自分好きになれないものです。「何をしたかったのか」や「どうしたかったのか」等を丁寧に聞き出し、「どうすれば成功できるのか」を寄り添って考える姿勢が有効な様子です。学校では折に触れて、特に集団の前で細々を褒めるよう努めています。引き続き学校と御家庭の両輪の下に、お子様の成長を見守って参りたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

私も教職員は、一人一人の子どもを大切にすると同様、皆様の一つ一つの御意見も大切に共有させていただいております。冒頭でも触れておりますが、昨年度までのF回答のお声を一定の評価に転じていただきましたことは、職員一同何より嬉しく思っております。今後においても、多々至らない点はあることと存じますが、子供たちの夢が実現するよう、日々の教育活動の充実にも努めて参ります。その為には、保護者の皆様と学校とのより密な連携が必要です。御相談や御意見につきましては、随時お受けいたします。引き続き御理解と御協力を重ねてお願いいたします。

2月の生活目標

寒さに負けず、元気に過ごそう

生活指導部

暦の上では春ですが、1年のうちで最も寒い時期です。多くの子供たちは、寒い日も休み時間には校庭に出て、元気に体を動かしています。しかし、暖房の効いた教室から出たがらない子供たちも見られます。屋外で体を動かすことで、体の中から元気になってほしいと思います。

また、インフルエンザや感染性胃腸炎等の感染を予防するために、うがい、手洗い、教室の換気を習慣付けるように呼びかけるとともに、校舎内では衣服の調節に心掛け、ジャンパーやコートは脱ぐように指導しています。

寒さに負けない体力を付けて病気を予防し、健康にこの冬を乗り切りましょう。ご家庭でもバランスの良い食事や適切な睡眠がとれるよう、お子さんの体調管理をお願いいたします。

学校運営協議会だより

2月の
運営委員会
の子定

- | | |
|-------|---|
| 【日 時】 | 平成30年2月21日(水) 18時30分～(予定) |
| 【場 所】 | 永福小学校 図書室 |
| 【内 容】 | (1) 会長挨拶
(2) 報告事項 ○教育活動の様子 ○各部からの報告
○30年度1年生について(総括) ○若手教員の1年間の学び
(3) 協議事項 ○学校関係者評価 ○教育課程届(案)
(4) 情報交換 ○学校支援本部からの報告 |



【課題】

- 雛形（フレームワーク等）の準備等に要する「初期投資の時間」は応分に必要であり、管理職の強いリーダーシップを要する。
- 業務改善の着手に当たっては、一時の「不安」や「多忙感」を超える「期待感」を生み出す具体的事例の提示や実行可能なノウハウの提供が不可欠となる。
- 改善の提案やその過程にあっては、ツールとしての言語が非常に大きな役割を果たすことから、その領域に適した豊かな「語彙」が高く求められる。（改善を要している学校現場は、既に多忙であり、膠着している傾向にあると「語彙」もいきおい膠着している。）
- 学校の継続的な業務改善には、組織的な取組みが不可欠であることから、職層に応じた働きかけやコーチングが習慣的に履行されていることが求められる。
- 「問題の解決・解消」を生業とする教職員にとって、「業務改善」は「手段」であり、「目的」でないことを常に意識して錯覚しないこと。



杉並区立永福小学校



児童がデザインをした
統合新校のコミュニケーションマークです



▶ ご清聴、ありがとうございました。